

## 会 議 要 旨

会 議 名	平成28年度 第2回館山市社会教育委員会議
開 催 日	平成29年2月1日(水) 午後1時30分から
開催場所	渚の駅たてやま レクチャールーム
出 席 者	社会教育委員8名、教育長、事務局8名
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
傍 聴 者	0 名

### 【会議概要・結果等】

#### 1. 開会

#### 2. 教育長あいさつ

数年前の新聞に掲載されていた記事にNHK受信料の都道府県別の支払い率が掲載されていた。因果関係は分からないが、受信率が低い都道府県は子どもの学力も低くなっていたことに気が付いた。

直接的な原因は分からないが、子どもたちは大人の行動をよく見ており、そのことが学力にも影響が出ているのではと感じた。

子どもたちへの教育は学校だけでなく、家庭、社会で育てていくことが必要。引き続き委員の皆様にも協力いただきたい。

#### 3. 議事

##### (1) 平成28年度社会教育・社会体育実施事業について

生涯学習課、博物館、図書館、中央公民館、スポーツ課より平成28年度実施事業について報告  
その後、質疑、意見交換

##### (2) 社会教育施策及び社会教育委員の役割に関する意見交換

#### 4. その他

#### 5. 閉会（閉会后、社会教育施設視察）

視察先 渚の駅たてやま内市立博物館分館⇒市立博物館本館⇒館山地区公民館⇒豊津ホール

### 【質疑応答・意見等】（◎⇒委員質問、意見 ●⇒事務局回答）

◎ PTA崩壊について報道されているが館山市の現状は。

● PTA役員を選出する際、役員のなり手を探すことに苦労している話は聞くが、メディアなどで報道されているPTAが組織できないようなことはない。関連する内容であるが、子ども会の加入率が悪く全児童の6割程度となっている。また、子ども会があってもバス代の高騰なども子ども会活動を制限する要因になっている。

◎ 子ども会加入について行政として促進する施策は無いか。

● 子ども会加入についてチラシなどは配布しているが、加入は任意であり、強制するものではないため難しい。

◎ 子ども会は地区祭礼時での活動など地域コミュニティ形成の中で重要な役割を果たしている。強制できないが加入促進についての方法について考えていかなければならない。子ども会に関心を持ってもらえるようなフォーラムを開催するなど一つ。このまま、子ども会が無くなってしまふのはさみしい。

◎ 若潮マラソン大会に携わっている。昨年、日本陸連のルールが改正となり、公認コースとするための基準が厳しくなった。市体協でも検討したが、公認コースの認定を受けないという結論に至った。

公認コースを外れたことにより自由度が高まることもある。給水所の位置、コース設定、渋滞緩和などをある程度自由になるため、検討しながら、大会自体の魅力を高めていきたい。

- ◎ 公民館サークルの中で講師となる方が主導しているケースがみられる。本来、サークル員が主体となり講師はその活動に協力をする形となるべきと考えるが公民館として講師に働きかけるようなことはしているのか。
- サークルは自主的な活動であることから、各サークルで定めている規約などにより判断している。公民館では営利目的の活動はできないため、目に余るような事象があれば個別に対応している。
- ◎ 資料中、博物館企画展入館者数と本館・分館入館者人数が合っていないが、どのような積算なのか。
- 各企画展の入館者数は来場者の人数となっており、本館・分館別に掲載している人数はチケット購入者数となっている。傾向として八犬伝博物館（城）でチケットを購入する方が多い。共通券となっており、お城でチケットを購入し本館を訪れているということ。

- ◎ 平成29年度の社会教育団体への補助金交付について  
⇒ 委員承認

- ◎ 議題2について、従来の社会教育委員会議の形態は市の取組について委員の意見を伺うという形となっているが、今後は社会教育委員として何が出来るか考えていく場としたい。今後、市で実施している事業に対して意見を伝えることに加え、平成29年度開校予定の房南学園など学校施設の見学などを通じて、社会教育委員会議のあり方を考えていきたいと考えるがいかがか（議長提案）。

（以下、各委員からの意見）

- ◎ 学校施設、社会教育施設のみの見学だけではなく、事業を実施している様子なども見学する機会があれば良い。
- ◎ 児童数が減っており地域子ども会も統合している。地域の中で何かできないかとの声上がり、竹細工、あんどんづくり体験など地域の親子に呼びかけたところ、たくさんの親子が参加し、喜んでくれている。地域で主体的に実施していることに対して、行政側も応援してくれるような仕組みができていけば良い。
- ◎ 幼児期における家庭内の教育力低下が小中高の教育まで繋がっている。学校現場で家庭教育に関する取組を行っても参加してもらいたい方が参加してくれない現状もある。学校現場でも家庭教育について学ぶ場、保護者の方々に関心を持ってもらえるよう工夫していかなければと考えるが、行政サイドでも家庭教育学級など実施しているが、大事なことなので取組を推進して欲しい。
- ◎ 委員報酬について、毎回会議が開催されるたびに支給されているが、高額のような気がする。社会教育委員会議は年2回開催されているが、予算に伴い会議回数が制約されているのであれば、報酬額を減らすなど考えても良いのでは。
- ◎ 今回の会議には、昨年市で実施した「館山市の公共施設に関する市民アンケート」の調査結果、また、香川県で作成されたものだが社会教育委員の役割などが分かりやすく明記された「社会教育委員ハンドブック」を配布したので、今後の活動に参考にして欲しい。

以上